



草間 典夫 議員

質問

望ましい良好な保育環境が保障できるように

答弁

保育希望内容や保護者の就労状況、保育士配置基準等により入所決定していく

草間議員の質問動画



議員

当市の待機児童の現状と保育施設の空き状況について伺う。

福祉部長

令和3年4月1日時点で待機児童はおらず、10月1日時点で待機児童は5名である。また、保育施設の空き状況については、年度当初は比較的空きはあるが、年度末になってくると受け入れが難しくなっている。

議員

待機児童がほぼ解消されているという状況から考えると、兄弟姉妹が別施設に入所している不都合はどうして起こるのか。

福祉部長

現在、別々の施設を利用している児童数は13世帯26名である。保護者の申込みの時期や保育の必要理由、就労状況等、また受け入れ施設の運営基準や保育士配置基準が関係している。そのため、申込みの段階で丁寧な聞き取りを行い、別々の保育施設になってしまいう場合には、保護者の同意を得た上で入所を決定している。

議員

十分に説明を受け、納得しての入所であっても、一年間の間には子どもの様子や家庭状況の変化も考えられるので、兄弟姉妹が別の施設という不都合はできるだけ解消するよう配慮していただきたい。

議員

次に、発達障がいを含む障がいをもつ児童の受け入れや配慮が必要な児童への個別的対応を行う保育士の加配などの支援体制はどうか。

福祉部長

保育をしていく過程で障がいがある場合、公立保育所では、その障がいの状況や程度によって加配担当の職員配置に努めている。また、民間保育所への支援策として、市が保育にかかる人件費の一部を補助することで加配職員配置の体制構築に寄与している。

議員

障がい児支援の拡充が必要とされている。質の高い保育実践と保育所機能を発揮するためにも、市の障がい児保育事業補助金については現状を鑑みながら再検討し、今以上に障がい児保育の支援に繋がるようにしていくことを望む。

議員

当市における児童生徒の不登校の現状を問う。

教育長

不登校児童生徒は、小学校で37名、中学校で88名である。現在、かしのきスクールに通室している児童生徒は、小学生6名、中学生17名である。

議員

実際に通ってはいないが、相談など様々な形で関わっている児童生徒の状況を問う。

指導課長

小学生9名、中学生21名と通室相談をしている。そのうち本年度相談の上、小学生4名、中学生12名が通室を始めた。また、通室に抵抗がある、もしくは距離的なもので手段がないことで、通室に至っていない児童生徒もいる。少数だが、オンライン授業という形で参加している児童もいる。

議員

通室に至らない理由として、立地的なもので送迎が困難であることが理由になっているケースもある。水海道地区の方からすると、



関 優嗣 議員

質問

水海道・石下の各地区に 適応指導教室を

答弁

まずは、子どもたちに寄り添える指導員の確保に努めていく

関議員の質問動画



議員

水海道地区にも適応指導教室ができれば通わせてあげられる、送迎もしてあげられるといった保護者の声も耳にする。当市において、今後同様の施設を増やすことは可能なのか、法律等の制限により不可能なのかを問う。

教育長

法律上その他のもので制限されるものはない。

議員

当施設に通室した児童生徒の状況を問う。

指導課長

小学生4名、中学生7名が学校に通えるようになった。また、進路に向けて、学校とかしのきスクールを併用しながら学んでいこうという生徒もいる。

議員

これは、かしのきスクールでの指導、学校や市との連携による成果であると考えられる。これまで様々な事情で学校に通えなかった不登校に悩む児童生徒が、一人でも多く利用できるような施設環境の充実や拡張を検討していただきたい。